

令和八年度日本航空高等学校

第一回模擬試験問題（国語）

受験番号	
氏 名	

一

次のA～Cの問いに答えなさい。

A 次の1～5の傍線部の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 公共場所を掃除する。
- 2 黄砂が飛んでいる。
- 3 梅雨が明ける。
- 4 包丁を研ぐ。
- 5 部下を遣わす。

B 次の1～5の傍線部のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 朝のシタクをする。
- 2 ワクセイや宇宙に興味がある。
- 3 トツゼン声をかけられた。
- 4 国語はヒツス科目である。
- 5 花束に手紙をソえる。

C 次の1～5のそれぞれの問いに答えなさい。

- 1 次の□に動物を表す漢字一字を入れ、慣用句を完成させなさい。  
友人とはすぐに□が合って仲良くなった。
- 2 次の□に適当な漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。  
□刀直入
- 3 傍線部の敬語の種類として適当なものを次のア～ウから選び、記号で答えなさい。  
海外のお土産を差し上げる。  
ア 尊敬語      イ 謙譲語      ウ 丁寧語
- 4 傍線部の品詞の種類として適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。  
朝ごはんを食べて、そして学校へ行った。  
ア 接続詞      イ 感動詞      ウ 形容詞      エ 動詞
- 5 作家樋口一葉の作品として適切でないものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。  
ア たけくらべ      イ 蜘蛛の糸      ウ にごりえ      エ 十三夜

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アキの家にいったことはなかった。

周囲から親友同士だと思われていても、俺自身で①そう思っている、アキの家にいくうと思ったことはなかったし、アキの方から誘ってくれたこともなかった。

アキは放課後、いつも忙しそうだった。ガソリンスタンドでアルバイトをしていると言っていた。手指はガサガサに荒れ、爪の中まで黒くなっていた。正直言ったら俺は、それが眩しかった。自分の手で金を稼いでいるというだけで、アキがいつぱしの大人に見えた。自分の柔らかい手が、恥ずかしかった。

学年にはもうひとり、ガソリンスタンドでアルバイトをしている生徒がいた。②遠峰というその女子生徒に、俺は惹かれていた。

遠峰には見た目にも分かる強さがあった。一重の目はきゅつと吊り上がり、眉毛も同じように強く引き上がっていた。細い鼻は線を引いたように長く、赤みの強い唇は滅多なことでは開かなかった。だからといって愛想が悪いわけではなく、皆を包み込むあたたかさがあつた。女子生徒には、「とおみ姐(ねえ)」と呼ばれていた。

遠峰はイラストがうまかつた。よくせがまれて、友人の似顔絵を描いていた。どれも特徴をよく捉えていて、どんな奴でも絶対に、実際よりも愛すべきキャラクターになった。それは遠峰の優しさによるものだった。

リクエストは日々エスカレートし、いつしか遠峰は漫画を描くようになった。最初は担任の奇行を描いた4コマ漫画だったが、それがクラスで起こった日常を描いた漫画になり、ついには連載が始まった。A4のレポート用紙に描かれた遠峰の漫画『にちじよう』は、有志たちによってコピーされ、ホチキス留めされ、ついには100円で売買されるまでに到った(のちに教師に知られて販売が禁止された。禁止されたことでさらに価値は上がり、『にちじよう』は闇取引されるようになった。一時期はなんと、800円まで競り上がった)。

遠峰には笑いのセンスがあつた。俺たちが見逃してしまうようなささやかなことを拾って、優しい笑いに昇華する。遠峰には明らかに、③光る才能があつた。

みんなが遠峰に「漫画家になれ」と言つたし、本当にそうなると信じていた。実際その後いろんな漫画を読んだが、高校生の遠峰が描いた『にちじよう』は、プロの作品に劣るものではなかった。でも、④遠峰は笑って、首を振るだけだった。

「プロの漫画家なんて無理だよ。」

俺と遠峰は、美化委員をしていた。

美化委員は、1ヶ月に数回、昼休みに学校の清掃をする。1年から3年生まで合わせて総勢40人ほどの委員が、おの希望した区域を掃除する。俺はいつも、さり気なく遠峰の近くを希望することになっていた。遠峰は職員トイレや炎天下の校門付近など、皆が嫌がる場所を希望した。だから俺は、面倒なフリをして遠峰のそばにすることに成功していた。

3 度ほど同じ場所を掃除して、遠峰はやつと俺の名前を憶えてくれるようになった。そしてその後は、廊下で会うと挨拶を交わすようになった。

「今月号も、めちやくちや面白かったよ。」

「早速読んでくれたんだね。」

「うん。てか、毎月買ってるだろ！」

「あはは、知ってる。いいカモだよ。」

「ひでえ！」

遠峰は笑うと、細い目がますます細くなる。その笑顔を見るたび、心臓を優しくつねられたような気持ちになった。⑤だから俺はいつも、そこで終われなかった。一言だけ話してクールに去ればいいのに、遠峰の笑った顔が見たくて、馬鹿みたいに話し続けることになるのだった。

「やっぱ、アキの描写が秀逸だよな。」

描写、秀逸、という言葉は父が使っていた言葉だった。いい映画を観たとき、いい小説を読んだとき、父はそんな風に言った。父がどんなときより「プロフェッショナル」に見える瞬間だった。

「アキが登場しただけでほっとするし、ちゃんとオチがつくっていうの？」

アキは『にちじょう』に、「心優しい大男」として毎号登場していた。大きすぎて、いつも頭部がコマで切れていたり、ときには紙面から飛び出していた。つまり顔が判別出来なかった。でも、後ろ姿や手だけでアキだと分かった。遠峰はアキの何とも言えない哀愁を、シンプルな線での確に捉えていた。

「ありがとう。でも、あれはさ、アキ君自身が素敵だからだよ。」

「すてき。」

「うん。アキ君って最高だよな。」

「さいこう。」

アキに嫉妬したのは、産まれて初めてだった。

つまり俺はアキを愛しつつ、同時に見下していた。少なくとも恋愛においては圧倒的に⑥取るに足らない奴」だと思っていた。

自分だって、彼女が出来たことはなかった。遠峰には想いを告げられていなかったし、遠峰以外の誰からも好意を示されるようなことはなかった。それでも、アキを恋愛市場においてのライバルだと見なしたことは一度も、本当にただの一度もなかった。でもそのとき、遠峰から「A」を、そして「B」を引き出したアキに、俺は猛烈に嫉妬したのだった。

問 傍線部①はどういうことを指しているか。次の空欄に合うように本文から語句を抜き出さない。

俺とアキが   であるということ

問一 傍線部②について、「遠峰」の人物像と合うものを次のア～オから三つ選び、記号で答えなさい。

ア 大人びており、一匹狼のような人物。

イ 強い性格で、包み込むあたたかさがある人物。

ウ 愛想があり、親しまれる人物。

エ 愛想がなく、人と距離がある人物。

オ 見た目にも芯の強さが表れている人物。

問三 傍線部③とあるが、その才能とは何のことか。本文から六字で抜き出さない。

問四 傍線部④とあるが、ここからどのようなことがわかるか。説明として適当なものを次のア～エから一つ選び答えなさい。

ア 遠峰にとっては大げさな褒め言葉であり、漫画家は難しいとと思っていること。

イ 遠峰にとっては当たり前のことであり、漫画家になる自信があるということ。

ウ 「俺」の言葉を優しく受け流して、その場をやり過ごそうとしていること。

エ 「漫画家になれる」という言葉をあまり快く思っていないということ。

問五 傍線部⑤とあるが、それはなぜか。本文の言葉を用いて簡潔に説明しなさい。

問六 傍線部⑥について、「俺」は「アキ」をどのように思っていたのか。説明として適当なものを次のア～エから一つ選びなさい。

ア 何もかも完璧で、自分とは比べ物にならないくらいすごい奴。

イ 何をするにも自分と一緒に、切っても切れない関係である。

ウ 恋愛においては、ライバル同士で絶対に負けたくない相手。

エ 恋愛においては、ライバルにもならないほど劣っている奴。

問七 空欄AとBに入る言葉を、本文中からそれぞれ抜き出しなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①「理解する」とか「わかる」と言うと、みんな「意味」と結びつけて考えがちです。相手

が不可解なことを言うとき、「これはどういう意味だろう」と勘ぐり出す。そうやって人はみんな意味を求めるでしょう。

ア 世の中を見れば、実は意味のないもののほうが大きな割合を占めています。部屋の中に変な虫がいたら、それは人にとっては意味がない存在ですが、いるんだから仕方ない。山には石がゴロゴロしています。意味などなくても、自然には石があります。

ところが、いまの世の中は意味のあるものしか価値がないと思っている。すべてが意味に直結する社会を情報化社会と言います。意味のないものを全部なくした一つの象徴が、会社の無機質な会議室です。あそこには意味のあるものしかありません。机と椅子とホワイトボード

で、せいぜい花が飾つてある程度です。②それと対照的なのが、山とか森です。自然の中にあるのは、都市文化にとっては意味のない無駄なものばかりですから。

(中略)

脳も世の中と同じです。イ、脳の大部分は無意識という「意味のない部分」が占めていて、意識なんて氷山の一角です。

ところがほとんどの人は、自分の意識が脳や身体の手を支配していると思っています。意識は意味を求めたがる。③それでわかるとか、わからないと言って悩んでいる。

そもそも意識がすべてをコントロールできると考えるのが間違いです。朝、目が覚めるのもひとりで覚めるのであって、意識的に覚めてるわけじゃないでしょう。

コップで水を飲むときも、意識は飲みたいから飲んだと思っている。脳が「こうしよう」と思ってから、その後に行動すると考えている人が多いですけど、④逆です。

脳を測ってみると、まず水を飲むほうにはつきりと動き出して、そのコマ何秒後に「水を飲もう」という意識が起きています。意識は脳がその方向に向かって動いた後から遅れて出てくる。だから、科学的に言っても、人は自分の意図で何かをしているかという、必ずしもそうじゃありません。

そういうことを無視して、わかるとかわからないとか言っても、それは意識の一番上澄みの部分だけの話をしているにすぎません。その下には膨大な無意識や無意味が隠れている。無意識や無意味なんて、お互いにわかるはずがない。上澄みだけを見て意味を求めるから、⑤「通じるはずだ」と思ってしまったっているわけです。

ウ 私は「人間はもっと謙虚になれ」といつも言います。自分の行動は、すべて自分でコントロールできていると思っている。そんなものは驕りです。

(養老孟司著『ものがわかるということ』より)

問一 傍線部①について、後の問に答えなさい。

(1) 著者は、それはなぜだと考えているか、答えなさい。

(2) また、そのような社会を何というかと述べているか、答えなさい。

問二 空欄アからウに適当な語句を後の語群から選び、それぞれ答えなさい。

語群 「一方・だから・そして・ところが・つまり・もしも」

問三 傍線部②について、「それ」の指示するものは何か答えなさい。

問四 傍線部③について、それはなぜか答えなさい。

問五 傍線部④について、それはなぜか、空欄1～2に当てはまる適当な語句を本文中から抜き出し、説明文を完成させなさい。

人は(1)で何かをしているわけではなく、私たちの意識下には(2)があり、私たちは上澄みだけを見て意味を求めているから。

問六 傍線部⑤について、どういうことか、次のア～エから適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分自身の生き方について、もっと傲慢に生きるべきだと思っていること。  
イ 自分自身の行動について、すべてコントロールできていると考えていること。  
ウ 赤の他人の行動について、関わるべきではないと考えていること。  
エ 社会全体について、すべて自在にコントロールできていると考えていること。

#### 四

この文章は、筆者の父親が上総国（現在の千葉県）での任期を終え、筆者家族が京へ向かう最中の景色や様子について書かれたものである。次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

富士の山は※この国なり。わが生ひ出でし国にては①西面に見えし山なり。②その山のさま、いと世に見えぬさまなり。さまことなる山の姿の、紺青を塗りたるやうなるに、雪の消ゆる世もなくつもりたれば、色濃き衣に白き※相着たらむやうに見えて、山のいただきのすこし平らぎたるより、煙は立ち上る。夕暮は火の燃えたつも見ゆ。

③清見が関は、※かたつ方は海なるに、※関屋ども※あまたありて、海まで※くぎぬきしたり。けぶり合ふにやあらむ、清見が関の波もたかくなりぬべし。おもしろきことかぎりなし。田子の浦は波たかくて舟に漕ぎめぐる。大井川といふ渡りあり。水の世の※つねならず、※すりこなどを濃くて流したらむやうに、白き水はやく流れたり。

『新編日本古典文学全集』『更級日記』より

#### 〔語注〕

※この国…駿河の国。今の静岡県東部。

※相…単衣の下に着る着物。ここでは、色の濃い着物の上に着用している状態。

※かたつ方…片方。ここでは浜辺のこと。 ※関屋…関所の番がいる小屋。

※あまた…たくさん ※くぎぬき…柱を立てて作った柵。

※つねならず…普通ではなく ※すりこ…米をすり碎いた粉。

問一 次の(1)～(2)の傍線部を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで答えなさい。

(1) 塗りたるやう (2) けぶり合ふ

問二 傍線部①は、何という山のことか。答えなさい。

問三 傍線部②を現代語訳したものとして適当なものを次のア～ウから一つ選びなさい。

ア その山の姿は、世の中の誰しもが見たことがあるものだ。

イ その山の姿は、本当にこの世で類のないほどのものである。

ウ その山の姿は、たいそう大きく、普段は見るできない。

問四 傍線部③について、作者はどのように評価しているか。本文中から十二字で抜き出しなさい（句読点等の記号は含まない）。

問五 作者は旅の風景をどのように捉えているか。空欄A～Bにあてはまる語句を本文中から抜き出し、表を完成させなさい。

どこが	どのような様子か
富士の山	鮮やかな青色を塗ったような山に雪が積もっており、山頂からは（A）が立っている。
清見が関	片方は海になっており、閑屋もたくさんある。
（B）	波が高く、舟を漕ぎめぐって進んだ。

五

作文

【テーマ】

あなたの将来の夢は何か。またそれに向けてこれから頑張りたいことは何か。

- 1 原稿用紙の書き方に従うこと。
- 2 題名・氏名は原稿用紙のマスの中には書かず、一行目から書きだすこと。
- 3 字数は百五十以上、二百字以内とする。
- 4 できるだけ漢字を使って書くこと。

11

1141

三四

五

[illegible]

受験番号	
氏名	
得点	

C	B	A
1	1	1
馬	支度	公共
2	2	2
単	惑星	こうさ
3	3	3
イ	突然	つゆ
4	4	4
ア	必須	と
5	5	5
イ	添	つか

二 18

問一	親友同士(親友も可)	問二	イ	ウ	オ	問三	笑	い	の	セ	ン	ス
問四	ア	問五	遠峰の笑った顔が見たかったから。									
問六	エ	問七	A	素敵	B	最高						

三 22

問一	(1) (いまの世の中は) 意味のあるものしか価値がないと思っ ているから。			(2) 情報化社会
問二	ア ところが	イ つまり	ウ だから	
問三	(会社の) 無機質な会議室		問四	意識は意味を求めたがるから。
問五	1 自分の意図	2 膨大な無意識や無意味		
問六	イ			

四 15

問一	(1)	よう	(2)	あう	問二	富士の山（富士山でも可）	問三	イ
問四	お	も	し	ろ	き	こ	と	か
問五	A	煙	B	田子の浦	ぎ	り	な	し

五 15

【配点】									
大問一 30点 2点×15問									
大問二 18点 問二問五3点、その他2点									
→問二：1つ1点									
→問七：1つ2点									
大問三 22点									
説明問題3点、記号・抜き出し問題2点									
→問二：1つ2点									
→問五：1つ2点									
大問四 15点 問四3点、その他2点									
大問五 15点									